

「令和2年第2回岩手県男女共同参画審議会」事前提出意見一覧

資料4

項目		ページ	意見	委員名	対応方向
はじめに		3	「はじめに」にて、以下の確認をした上で意見を述べさせていただきます。 H12からのプラン策定の流れと今回が新たなプラン策定であること中長期的見通しに立っての策定であること国や県の各種計画と整合性を図った実施計画であること 2 プランの性格 4 項目目 県民一人ひとりが男女共同参画の実現を自らのこととして考え、家庭・地域・社会等・・・ →家庭・学校・地域等とし、子どもの頃からの 身近な 取り組みとして注目していただきたい。等に含まれるという解釈ではなく、はっきりと印象づけてほしい。	高橋委員	「家庭・地域・社会等」を「職場、学校、地域、家庭等」に修正します。 (条例前文に合わせた記載)
		8	(3) 9 行目 致命的な被害を負わない強さと速やかに回復するしなやかさを持った安心・安全な地域社会の構築 →「強さ」と「しなやかさ」を持った地域社会という表現は抽象的ですが、具体的にはどのような地域社会でしょうか。 自然災害のリスクに対応して安心して暮らすためには、物理的な危機管理と自分の暮らす地域が安全と思える差別・偏見のない人間関係 の構築に尽きると思われます。	高橋委員	「強くしなやかな国民生活の実現を図るための防災・減災等に資する国土強靱化基本法」に基づき、本県では、いかなる大規模自然災害が発生しても、「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を持った安全・安心な地域社会の構築に向け、「岩手の強靱化」を推進するための指針とすべく、「岩手県国土強靱化地域計画」を策定しています。 この計画では、推進するうえでの基本目標として、次の4つを掲げています。 《基本目標》 いかなる大規模自然災害が発生しようとも、 (1) 人命の保護が最大限図られる (2) 社会の重要な機能が致命的な障害を受けず維持される (3) 県民の財産及び公共施設の被害の最小化が図られる (4) 迅速な復旧・復興を可能にする
第1章		10	(1)の図表右上の数字が見にくいので、県と全国の数字の色を変える等見やすい工夫をお願いします。	山村委員	見やすくなるように工夫します。
現状と課題	平成28年プランにおける成果と課題	17.18	現行 プランでは(14)の項目では、平成32年の目標値が記載されている項目もありますが、「横ばいで推移」「着実に増加」「継続して行われている」という表現になっています。 表現の根拠となる数値の記載はしないのでしょうか。	高橋委員	数値がわかるように記載するようにします。
第2章 基本的な考え方	プランの基本目標	19	プランの基本目標 「性別にかかわらず」という言葉が入ったことは、人権を意識しながら、ジェンダーの問題意識を持つこと、国の「男女共同参画基本計画」、県の「男女共同参画推進条例」との 整合性に 配慮できたと思います。	高橋委員	御意見ありがとうございます。
	施策の基本的方向	19	2 施策の基本的方向 あらゆる分野における女性の参画拡大地域社会が持続的に発展するために一発展することを目指すのではありませんか。 発展を望むというよりは安定して安心して暮らせることを望みます。 内閣府の資料にも「我が国の経済社会の持続的発展を確保」という文言にも、コロナ禍の計り知れない中長期的影響を考えれば、違和感があります。	高橋委員	女性が参画することで、地域社会がよりよくなる、活気がでる、活性化する、活力をもつといった意味合いで使用しています。

項目		ページ	意見	委員名	対応方向
第3章 各論	I あらゆる分野における女性の参画拡大	23～26	あらゆる分野を「政治、行政、経済等」と「地域社会」に分けて記載する理由を教えてください。 二つの分野として分断されているような印象です。 女性の登用については、あらゆる分野で性別や立場にとらわれず、知識や経験があるか無いかで差別・偏見のない人権意識を持って議論を主導できるリーダーの育成が必要であると思います。	高橋委員	地域社会での男女共同参画の推進が特に重要であることから、地域社会についてを特出して項目にまとめたものです。
		23	《現状・課題》下から4行目「ポジティブ・アクション」 →現行プランでも取り組みの必要性に触れていますが、実際にポジティブ・アクションに取り組んだ施策はあるのでしょうか。 新しいプランの施策は「促進・登用の働きかけ」「状況の調査・公表」となっていますが、「ポジティブ・アクション」の働きかけはできないのでしょうか。	高橋委員	「いわて女性の活躍促進連携会議」の構成団体と協力しながら、各企業や団体等で女性の採用拡大・職域拡大・登用が促進されるよう経営者研修等の開催に取り組んでいます。
		25	＜施策の方向＞「固定的性別役割分担意識についての意識改革を行う」追加頂きたい。 前プランでは、計画の基本的な考え方や男女共同参画の視点に立った意識改革と制度慣行の見直しの中に「固定的性別役割分担意識」について記されていますが、本プランにはその言葉が見当たりません。平成28年プランにおける成果と課題(P17、18)や＜現状・課題＞(p25)からも、根強くある固定的性別役割分担意識の変容の必要性を強く感じます。県土が広く固定的性別役割分担意識について格差の大きい岩手において男女共同参画を推進するには、「固定的性別役割分担意識の変容」は重要な課題であると考えます。国の「第5次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方(素案)」にも明記されています。また、男女雇用機会均等法にもセクハラやパワハラ要因の一つとして明記されており、地域での参画のみならず、働くうえでも重要な課題です。	佐々木裕子委員	固定的性別役割分担意識の解消については、「V基盤の整備」の意識改革(P53)に記載しておりますが、地域社会での取組は意識改革が重要であることから、記載することとします。
II 東日本大震災津波からの復興と防災における男女共同参画の推進		29	2. IIの2「防災」という枠組みですが、今回のコロナのような事態を含め、「リスク管理」という視点と、それに基づく取組を盛り込んでください。 理由:「リスク管理」のマニュアルは、企業等でも作成されるようになっていますが、そこに、男女共同参画の視点や多様性尊重の視点を盛り込むことを推奨し、県がモデル事例を提示する等の検討を進めることは、全国の先進事例ともなり、大きな意義をもつことになるからです。また、「女性活躍」だけでない、企業における男女共同参画の視点の導入のきっかけとしての効果も期待できると考えるからです。(たとえば、岩手大学では、コロナ禍の前でもあり、男女共同参画の視点に関連する箇所はわずかですが、すでにマニュアルが作成されているので、参考になるかもしれません。)	堀委員	実態等についての情報把握が必要であることから、情報収集に努めます。
		29	＜現状・課題＞「災害時における女性防火クラブ等の～」について 「災害対応における女性の役割が大きいことから、女性の防災に関する政策・方針決定過程への参画や、リーダーとしての活躍を推進する必要があります。」に変更願いたい。 多様な団体や多くの女性たちが関わっているので、前半は不要と考えます。	佐々木裕子委員	前半部分の削除することし、記載内容について検討していきます。
		30	(3)「男女共同参画の視点からの防災研修を行うよう自主防災組織に働きかける」 「防災における女性リーダーの育成を推進する」に変更いただきたい。 また、「自主防災組織に占める女性割合」を指標にしていきたい。 女性消防団については県民計画復興推進プランにも明記されていますし、自主防災組織に必要なのは女性の参画のみならず男女共同参画視点からの防災です。自主防災組織が自治会役員と重なっていることが多く、自治会長や役員に占める女性割合が極端に低い現状で、女性が自主防災組織に参画しやすい環境を整えるには、男女共同参画の視点の防災の必要性を理解してもらうことが必須です。(3)は前プランとほぼ同じ文章で、単なるこれまでの踏襲では参画拡大は難しいと考えます。 令和2年5月に男女共同参画局から出た「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン～」にも、「女性は防災復興の主体的な担い手である」ことや「防災会議委員や自治会長・自治会役員に占める女性割合を高める」ことの必要性が明記されています。女性が主体的な担い手になり参画拡大ができるような人材育成、女性防災組織が必要と考えます。	佐々木裕子委員	「男女共同参画の視点からの防災研修」については、「(2)災害からうける影響の男女の違い等に配慮した防災対策の実施」に趣旨を記載しています。 また、「防災における女性リーダーの育成」については、(3)の2つ目の○で取組を進めることとしています。

項目		ページ	意見	委員名	対応方向
Ⅲ女性の活躍支援		31～	<p>1 女性の職業生活における活躍の推進</p> <p>①《現状・課題》において、女性活躍推進法(女活法)の改正により、令和4年4月から「一般事業主行動計画」の策定等が義務付けられる範囲が拡大(301人以上→101人以上)されることについてもふれていただくとともに、この関連で、《目指す姿を実現するための施策の方向》(5)にも、岩手労働局とともに周知啓発を行う等の記載をしていただくことをご検討ください。</p> <p>②岩手県が行っている「いわて女性活躍企業等認定制度」は県内企業が女性の活躍を推進する上で大変有効な施策であると考えます。この施策を今後も引き続き実施されるのであれば、これを積極的に進めることを盛り込んでよいように感じます。</p>	山村委員	素案に盛り込めるよう記載内容について検討していきます。
		35	(2)仕事と生活の調和(ワークライフ・バランス)の推進 <p>現行 プラン の岩手労働局等と連携し・・・という項目が削除されていますが、P37 のパートタイム・有期雇用労働法の周知の連携に焦点を絞ったのでしょうか。</p>	高橋委員	ワーク・ライフ・バランスの記載については、(2)の2つ目の○と統合し、雇用環境の整備については、3での記載として整理しました。
		35	<p>1)働き方改革の取り組みの推進</p> <p>最後の行「ダイバーシティ経営⁵⁾」の説明が抜けていることに気が付きました。「いわて働き方改革推進運動」をHP で確認しました。期待できる取り組みであると思いました。</p>	高橋委員	記載いたします。
		35	ダイバーシティ経営について 注5の記載が下段にありませんので記入願います。	佐々木裕子委員	記載いたします。
		36	<p>P36 2 仕事と生活を両立できる環境づくり</p> <p>①女性の活躍推進と仕事と家庭の両立は両輪であり、その実現のためには、男性の育児参加が重要ですが、男性の育児休業取得率は低調となっています。育児休業取得だけが男性の育児参加ではありませんが、きっかけの一つとして重要と考えます。男性の育児休業取得は、職場だけでなく、親等周りの理解も重要であることから、例えば、《皆さんに期待すること》に<u>男性の育児休業等の取得をはじめとする育児等への参加について盛り込む等、もう少し踏み込んだ記載をしてもよいように感じます。</u></p>	山村委員	素案に盛り込めるよう記載内容について検討していきます。
		38～	<p>3 男女均等な雇用機会・待遇の確保など雇用環境の整備</p> <p>①《目指す姿を実現するための施策の方向》の(1)の○の2つ目と3つ目は、(4)に同様の記載があることから、削除してもよいと思います。</p> <p>②ポジティブ・アクションの取組には、女性の採用拡大・管理職登用とともに、配置拡大も含まれることから、《皆さんに期待すること》の「企業」の3ボツ目について、「女性の採用・配置・登用～」としていただくことをご検討ください。</p>	山村委員	<p>①削除いたします。</p> <p>②御意見のとおり修正いたします。</p>
		38	<p>《目指す姿を実現するための施策の方向</p> <p>同じ文章が繰り返されていますが、(と(4)はまとめるわけにはいかないでしょうか。</p> <p>(1)2項目目と(4)1項目目の文章、(1)3項目目と(4)2項目目の文章が同じです。</p>	高橋委員	(1)の○の2つ目と3つ目について削除いたします。 (上記①と同様)

項目		ページ	意見	委員名	対応方向
IV 多様な困難を抱えた女性への支援と女性の健康支援			IV-1 女性に対するあらゆる暴力の根絶 現行プランでは、「メディアにおける人権の尊重」が項目にありましたが、新しいプランにはないようです。削除の理由を教えてください。	高橋委員	SNS等を通じた暴力被害の危険性が深刻化していることに鑑み、「1女性に対するあらゆる暴力の根絶」の(2)として「SNS等を通じた暴力被害の防止」を新たに小項目として設け整理しました。(P43) また、メディアに関連する意識啓発の取組としては、P53の意識啓発に関する施策の方向に記載することとしました。
	42		多様な困難を抱えた女性への支援と女性の健康支援 多様な困難に直面する女性支援政策パッケージ(多様な困難に直面する女性に対する支援等に関する関係府省連絡会議)と整合性を図った内容と思われます。 パッケージの政策の方向性として相談体制の整備、支援者の育成・確保、支援体制の見える化と利便性の向上について示されています。 支援者の育成・確保について、パッケージの現状分析は行政の窓口相談において、「女性の権利や心情に十分に配慮した対応ができていない、支援者が女性の抱える困難の背景にある社会的・構造的問題を理解していない事がある」(パッケージP2 課題と記載されていますが、県の新しいプランの援助や支援についての記載(P43 P44は現行プランと同文のままになっています。 相談事業をやっていないCAP 岩手に相談電話がかかってくることもあり、相談窓口や支援機関を紹介しているのですが、すでに相談した方がほとんどです。その場合、個人的にお気持ちを聴くことができないのですが、相談者はいつも少し落ち着いたと言って電話をきります。すでに相談したという相談窓口の対応が気になっていました。 また、パッケージではDVと児童虐待に関わる支援機関の連携が進められている現状に触れ、切れ目のない支援として「児童生徒の相談等に的確に対応できるよう、養護教諭等と連携しながら・・・」(パッケージP5)また、DV被害者の一時的保護の際の同伴子どもへの支援(パッケージP6～などの記載がありますが、県の新しいプランにはみあたりません。女性のケアと子どものケアはセットで考えていただきたいと思います。	高橋委員	御意見の内容を関係部局と共有し、内容の充実を検討します。
	43		(1) 女性に対する暴力を防ぐ環境づくり 4 項目目「子ども・女性110番の家」 親の暴力を子どもが訴えて駆け込んできたら、性被害を受けた女性が助けを求めて駆け込んできたらどのように対応したらよいかを、「子ども・女性110番の家」のみなさんはご存じなのでしょう。被害者への初期対応(心の手当て)は重要です。	高橋委員	「子ども・女性110番の家」は、主に防犯ボランティア団体の自主的な取組ですが、県ではこれまでマニュアルの配布やピカボメールにより対応等を周知してきたほか、今年度からは研修会を開催することとしています。
	44		上から2行目「はまなすサポート」 総合的支援という記述より、ワンストップ支援センターとしたほうが今後わかりやすくなるのではないのでしょうか。 ワンストップ支援センターについては、パッケージP5に記載があるように、処遇改善、運営の安定化、質の向上の促進を望みます。	高橋委員	記載内容について関係課と検討していきます。

項目		ページ	意見	委員名	対応方向
V 男女共同参画の実現に向けた基盤の整備	51		その他 Vの1で国際会議の事例として、「世界女性会議」が取り上げられていますが、実際にどのような施策を想定されているのか、実態に合わせた記載にいただくことをお願いいたします。世界女性会議は1995年以降開催されておらず、注を含め、実態にそぐわないのではないかと感じられます。	堀委員	記載内容について検討していきます。
	50		V 男女共同参画社会の実現に向けた基盤の整備 (2) 学校教育の充実 →最初の項目が加えられ、他の項目は現行のままです。現行の取り組みの実態・成果はどの程度でしょうか。教育委員会との連携は図られていますでしょうか。	高橋委員	現状と課題の記載内容について、教育委員会と検討していきます。
	50		(2) ○「学校における～男女混合名簿の使用拡大を促進します」について 調整委員からの勧告を受けて、関係機関への働きかけや使用状況についての報告等をして下さった教育委員会関係者に感謝します。 令和元年度混合名簿を使用している校種別使用率は、小学校70, 2% 中学校50, 3% 高等学校98, 7% 特別支援学校100%となっており、どこをどのように促進するのか、単に校種別使用率を100%にすることなのか、混合名簿の種類の比率を増やしていくのかわかりません。もう少し具体的な方向性を示してください。	佐々木裕子委員	「いわて県民計画」では、具体的推進方策指標として、小・中・高の使用率を2022年までに100%になるよう取り組むこととしています。 記載内容について教育委員会と検討していきます。
	51		(4)「～推進する人材の養成を行うとともにその活動を支援します」について <u>養成と支援だけではなく、具体的な施策の方向性が必要と考えます。</u> また、サポーター養成講座受講数を指標にするのではなく、 <u>その後の活動についての指標を作っていただきたい。</u> 平成28年プランにおける成果と課題(p17.18)では、「サポーター認定者数は着実に伸びています」と書かれていますが、審議委員の割合や意識調査、課題などからは、その伸びが男女共同参画推進にはつながっていないように思います。 <u>どんな人材を育てたいかやどんなプログラムが必要なのかの視点も必要と考えます。</u> また、推進したいと思っても、周りの性別役割分担意識等により力を発揮できない女性たちもいるのではないかと考えます。講座を修了しただけでなく次のステップにいける仕組みも重要と考えます。 p59(3)男女共同参画サポーター も同様	佐々木裕子委員	「いわて男女共同参画サポーター」は、地域での男女共同参画の推進のため、県又は市町村の施策・事業等の企画・運営への協力や各地域で自主的な活動を実践する者を認定しているものです。 認定後は、主に市町村事業への協力のほか、各自が取り組んでいる活動分野での男女共同参画を推進するリーダーとしての活躍が期待されます。
	53～		3. Vの2の「意識改革と制度・慣行の見直し」で、偏見や固定的な社会通念、慣習、しきたりへの言及がありますが、「アンコンシャス・バイアス」への取組を盛り込んでください。 理由：自覚や自制では簡単に解消できない、無意識のうちに生じるバイアスが、男女共同参画実現を阻むことを指摘する点に、「アンコンシャス・バイアス」という言葉の意味があります。私たちは、ちゃんと判断しているつもりでも、無意識のうちに、相手の能力を正しく評価できていなかったり、自身の進路や職業選択の可能性を狭めてしまっているのです。岩手大学で経験を踏まえ、この取組の有効性、先進性を実感していることが提案の理由です。	堀委員	記載内容について検討していきます。 なお、「アンコンシャス・バイアス」への取組について、何か有効なものがあれば御助言願います。
	54		(2)○「指定校における性的マイノリティ～」について <u>「すべての学校で性的マイノリティ(LGBT等)を含む人権教育に関わる取り組みをし、児童生徒及び教職員の理解を深めます」に変更願いたい。</u> いわて思春期研究会と岩手県高等学校教育研究会学校保健部会が行った「岩手県の高校生の生と性に関する調査(2013～2014年)」には「10.1%がいわゆる同性愛、両性愛、トランスジェンダー等のセクシュアルマイノリティであった」との記載があり、すべての学校で取り組む必要があります。また、セクシュアルマイノリティの若者がマジョリティの若者より希死念慮が強いことを考えれば、セクシュアルマイノリティへの理解の促進は喫緊の課題であるといえます。どの学校でもセクシュアルマイノリティへの理解促進ができるよう管理職への研修、理解の促進を是非お願いいたします。 文部科学省の「性同一性障害や性的指向・性自認に係る、児童生徒に対するきめ細かな対応の実施について」「いじめ防止等のための基本的な方針(最終改定平成29年3月)」などでも、管理職、教職員への研修、理解促進、学校対応について記されています。	佐々木裕子委員	指定校における取組を全県的に普及することとしていることから、これにより取組を推進していきます。

項目		ページ	意見	委員名	対応方向
		56～	<p>文言を以下のように変えてはどうでしょうか。 「男性の家庭生活への参画と社会全体で子育て・介護等を支援する環境づくり」 →「<u>家庭生活の担い手としての男性の自立(または主体性の確立)と社会全体で暮らしを支える環境づくり</u>」</p> <p><理由> 「男性の家庭生活への参画」というとまるで男性が家庭生活において不在、もしくは阻害されているようなイメージが湧きます。またやはり、配偶者や子供の存在を前提とした「家庭」のように思えます。実際は独身独居の人含め誰もが家庭生活を営んでいるのですし、家庭で生活している以上、どういった形であれ「参画」していない男性はいないのではないかと、思います。実現しなければならないのは「男性の家庭生活への参画」ではなく、「家庭生活の担い手としての男性の自立」あるいは「家庭生活の担い手としての男性の主体性の確立」ではないのでしょうか。 そういった観点に立つと、後半部は「家庭(の主婦など家庭内のケアワーカー)が担ってきた子育てや介護などを社会で支援しよう」ではなく、「配偶者がいる人もいない人も子供がいる人もいない人も、セクシャルマイノリティなど現在結婚制度を利用できない人も、配偶者との死別離別や子供の独立などで独居になった人も、どんな人も安心して暮らせるよう、社会で支えよう」ではないのだろうか、と思います。前回の審議会で堀先生がおっしゃったのも、そういった主旨だったかと記憶しています。</p>	菊池委員	女性の参画を阻むものとして、子育て・介護等の負担が大きことから、項目として掲げたものです。
第4章 計画の推進		59	<p>もっとも気になるのは、「第4章 計画の推進」の記述が薄いことです。 1. 政策等が実効性をあげるには、PDCAサイクルを確実に回していくことが重要であり、その仕組み(進捗状況管理)についても計画にきちんと書き込む必要があると考えます。 審議会では、他の委員とも意見交換をしたいと思いますので、7月に公表された「第5次男女共同参画基本計画策定に当たっての基本的な考え方(素案)」の89-92ページを手元資料として配布いただけると有難いです。 県案(p.60)では、指標調査、年次報告公表、審議会での評価・検証等がすでに記載されていますが、以下についても具体的に、言及していただくことをお願いいたします。</p> <p>① 進捗状況をより具体的に把握できるよう、県が整備する各種データにおいて、性別(男性・女性・言いたくない、それ例外等)によるクロス集計での公表を原則とすることを盛り込んでください。(上記素案 2(2)③参照) 理由:すでに、Ⅱの1(3)で、復興については取り組まれています、たとえば、現在のコロナ禍において、さまざまな場面で性別による影響の違いがあることが想定され、対応施策立案にはその根拠となるデータが必要となります。しかし、その際にどのようなデータが必要になるかは予め想定できるものではなかったと思います。それゆえ、平常時から、性別によるデータ把握を原則とすること、そしてそれを県民も活用できることが重要だと考えるからです。</p> <p>② 審議会の役割に、計画推進への提言等に加え、その役割を果たすための機会を確保することをお願いいたします。具体的には、年間の開催回数等の拡充と、委員への研修機会等の提供を行うことを盛り込んでください。 理由:岩手県の推進体制では、進捗状況管理における審議会の役割は大きく、にも関わらず、これまでの開催状況ではそれを果たすには不十分だったと考えるからです。</p> <p>③ とくに進捗の滞り課題への施策の強化に向け、1に掲げた関係者への進捗状況報告と、それを踏まえた情報・意見交換等を行い、男女共同参画政策への関心を喚起することを盛り込んでください。 理由:これについては、すでに取組もあるかと思いますが、計画の推進の一環として、書き込むことで、評価・検証の取組が強化されることを期待するからです。</p>	堀委員	審議会において男女別のデーターを提供できるように取り組むことや、効果的な開催ができるよう工夫していきます。

項目		ページ	意見	委員名	対応方向
その他			また、計画の内容ではなく、策定手順に関わることとなりますが、Ⅲの4、Ⅴの2(性的マイノリティ)等の計画立案において、当事者の声は、どのように聴取されていますか。Ⅲの4については、嵯峨さんが関係者ということになるのでしょうか。ご教示ください。	堀委員	現在のところ、各市町村・団体等へのアンケートで御意見を聴取しているほか、関係部に意見を聴きながら策定を進めています。 今後、様々な立場の方の意見を聴取できるよう、検討していきます。
			「性別に関わらず」「平常時から」「性別を問わず」など大事な言葉がわかりやすく明記されていると思います。	佐々木裕子委員	御意見ありがとうございます。
			2. 男女共同参画全般に関する意見 5月もりおか女性センターに着任し6月から相談に携わるようになりましたが、DV被害者支援についても、1と同様なことを感じています。「暴力は許されない」ということは誰でも知っていることで、結局のところDVの未然防止に繋がるのは、「暴力を許さない意識づくり」というよりも「自分の問題解消を妻に押し付けない、妻の責任にしない」ということなのではないかという気がします。 このことについては、第3章 V-3で言及している男性相談に可能性があるのかもしれませんが。個々の悩み事に対し解決策を提示するというより、男性が内省的に自分を見つめ、弱さやストレスを第三者に開示し、セルフケア・マネジメントに繋げる場になればいいなあ、と願います。女性相談もまた、誰かに解決してもらう場ではなく、自分を見つめて自分で決めていくための場です。	菊池委員	御意見ありがとうございます。